

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790100739		
法人名	株式会社 あいの里		
事業所名	あいの里 矢野目 ガーベラ		
所在地	福島県福島市南矢野目字上戸ノ内7-3		
自己評価作成日	令和8年2月11日	評価結果市町村受理日	令和8年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	令和8年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あいの里三大行事として、「敬老会」「誕生日会」「クリスマス会」があり、入居者様に特別な一日として楽しんで頂けるよう、会社全体として、本社と各事業所が協力し合い、計画し実践しています。また、誕生日会は、ご家族様を招待してお祝いしたり、以前暮らされていた場所を巡ねるドライブをして頂いたり誕生日という特別な日が楽しい思い出となるよう、充実した一日を過ごしていただいております。日常生活の中では、バーベキューや新米祭り、夏祭りなど、入居者様と職員が笑顔で楽しく過ごせるよう、日々考え努力しております。毎日の日課としては、入居者様にご参加いただき、ラジオ体操やリハビリ体操、そして皆様の大好きな歌のレクリエーションやゲームを行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 法人理念の『地域の方々とのふれあい』を大切にしながら、日常的な近隣住民とのお付き合いや地域行事へも積極的に参加し、利用者の『満足と信頼を得る』(理念)ことに尽力している。三大行事の敬老会、誕生会、クリスマス会には家族や地域の方々も招待し、充実した時間を過ごしている。また、日常生活でも、寝坊したいときにはその人のペースに合わせて朝食を準備したり、就寝前の入浴希望があればその都度対応するなど、本人本意の支援を行っている。
2. 献立はユニットごとに作成し、3食共利用者のお手伝いを頂きながら手作りで調理している。事業所の畑で収穫した旬の食材を用いたり、毎月1回ふたつのユニット合同の食事も、誕生日は利用者のリクエスト食、暦ごとの行事食、手づくりおやつなど、充実した食事になるよう配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念「お客様に対して誠心誠意のケアに努め地域の方々とのふれあいを通じお客様の満足と信頼を得る」を毎月会議の時に全員で唱和している。	法人理念を基軸として、令和8年1月に全職員で協議のもと、事業所理念を策定した。理念は事業所内の掲示に加えて、月次全体会議での唱和、運営推進会議資料にも掲載して、関係者への周知を図っている。重点項目として年度スローガンを定め、理念の具体的実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方やホームの前を通られる方々には挨拶を欠かさずに行っている。ホームの玄関にはベンチを置いてあるので、地域の方々とのふれあいができる。	町内会に加入し、回覧板で地域の情報を共有している。地区の芋煮会参加や近所のお庭を提供頂き、観桜会なども行っている。地域住民から果物等の差し入れもある。事業所近隣を散策して住民と挨拶を交わすことが日常となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括の方と一緒に地域の方に向けての認知症カフェを開催し取り組んでいる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	メンバーから花見に最適な場所を聞きだし参考にさせていただきながら行事に活かしている。	事業所を会場に対面で開催している。利用者も毎回参加し、食事や行事の感想などを述べてもらっている。ヒヤリハットや事故等の状況を詳しく説明することで、委員から多くの質問や意見が上がり、要介護高齢者への理解促進や事業所としての課題確認にもつながっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活福祉課の担当者にサービス計画書を提出に行く時に現在の状態も含めて報告している。	運営推進会議には毎回地域包括支援センターの参加があり、事業内容を伝達している。担当課とは電話やメールでの連絡を主とし、事故報告書は持参の上、口頭説明を加えて提出している。生活福祉課には定期的にサービス計画書を持参提出し、事業所の現状等も伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止・身体拘束委員会を設け毎月不適切ケアチェックを行い予防に努めている。また、職員の行動を再確認している。	指針に基づき、身体拘束適正化委員会を設置し、拘束なきケアに注力している。現状のケア提供内容について毎月全職員がチェックを行い、ユニット会議で確認、改善に努めている。全体会議では代表取締役も出席のもと、事故状況と共に不適切ケアの有無について確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月不適切ケアチェックを行い予防に努めている。また全体会議の中でヒヤリハットで社長、部長から指摘され再度内容について話し合いを持ち理解を深めている。	指針に基づき、虐待防止検討委員会を設置し、身体拘束適正化委員会と合同で会議を開催している。不適切なケアについては指針の説明と共にユニット会議でも現状の確認と改善に努めている。スピーチロックについても管理者や主任等が随時助言指導を行っている。	指針の「5.虐待等が発生した場合の対応方法」や「6.虐待が発生した場合の相談報告体制」の内容を虐待防止法と照らし合わせた文言修正や通報手順等のフローチャート化が求められる。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中に成年後見制度を利用されている方がいるので相談をしながら行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間を取り、十分な説明を行ったうえで、ご家族様の疑問や不安を尋ね、理解・納得いただく努力をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の時に頂いたご意見や要望を確認し反映できるものは活かしている。	来訪時に家族との話しの中からケアのヒントを頂くこともある。今まで把握していなかった趣味活動を支援に導入したことで、BPSD(行動・心理症状)が減り、表情や行動が豊かになった事例もある。利用者から拝聴した意見や要望は、献立や行事などに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談を常に行い、職員が不安なく仕事ができるように風通しよい環境に努めている。また職員が意見を話しやすい関係づくりに努力している。	1日4回の申し送りで、職員間のコミュニケーションを深めると共に、法人の方針として「1on1」(個別面談)に注力している。管理者・主任・エリア長は2か月に1回程度は各職員と面談し、意見・提案を聴き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	週休三日制度を導入し仕事と休日のメリハリをつけやすくしている。また、向上心を持って仕事ができる働きやすい環境となるよう、職場の環境作りに努めている。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員に社長講話を行い入職して3ヶ月以内の職員、中途入職の職員にも定期的に研修を行っている。	法人が策定した年間研修計画に基づき、接遇マナーや認知症の理解等、毎月テーマ別の研修会を実施している。全体会議では現状の課題分析を通して職員の気づきや知識の向上に努めている。資格取得への費用補助制度もある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議、北信西定例会に参加し地域の課題等について話し合っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調の際に本人様と会話する十分な時間を取り、不安な事や困っていることなどを聞き出し不安な気持ちを取り除ける努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実調の時にご家族様と話す十分な時間を取り困っていることなどを聞き出し相談したり相談を受けたりしながらサービスを提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実調の時に本人、ご家族様の要望を聞きその要望を叶えられるようなサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様と一緒に洗濯物を干したりたたんだり、また食器を拭いたり、新聞たたみをしたりしながら、暮らしを共にする者同士の関係を築き、ご本人様の出来ていることの継続に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老会や誕生日会に参加して頂いている。病院受診はご家族様に協力頂いている。受診時に外食を楽しまれている。面会時には状態の説明を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親せきの方々との面会を通して交流いただき、時には外へ食事に行くなど、関係が途切れないよう支援に努めている。	友人、知人の面会も支援しており、同級生と長時間過ごす利用者もいる。家族との外出や外食、法事や孫の結婚式に参列する方もいる。担当者が毎月家族へ写真満載の広報と共に手紙を添え近況を伝えるなど、関係継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様に声掛けし、皆様が揃っての歌レクや体操を毎日行っている。また、ボール遊びなどのレクリエーションを行っている。施設のイベントでも入居者様同士が関わりあえるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した入居者様のご家族でも、連絡があれば必要な書類を準備し対応したり、相談を受けたり状況を聞かせていただいたりと支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様・ご家族様の思いや希望はケアプランに取り入れ職員全員で情報共有を行い実践している。	ゆっくりと起床したい場合にはその人のペースに合わせて朝食を準備し、就寝前の入浴を希望される場合は、その都度対応するなど、本人本意の日常生活支援に力を注いでいる。口頭での意向伝達が難しい場合は、表情や仕草から思いを汲み取り、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査の時にご家族様から生活暦や暮らし方、生活環境などをお聞きし把握したうえでサービスに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録を通じて情報共有し、入居者様に寄り添い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様からの要望を聞き、本人様がより良く暮らせるための課題を見出しながらケアプランに取り入れ実践している。	入居時は1か月の初期プランに基づくケア提供と並行して全職員でアセスメントを深めたのち、長期12か月短期6か月の支援目標を立案し、ケアを提供している。月次ユニット会議で現状の確認を行い、短期目標期間ごとに全職員でモニタリングをまとめて、プランを確認・再策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録シートや温度版、ヒヤリハットなどの記入を行い、申し送りや会議などで情報共有を行い介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日会をホームで行わずご家族様と過ごされる機会を設けたり、通院時に外食されたり買い物をされたりと柔軟な支援や対応に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の芋煮会などには率先して参加し、地域の方々と交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の受診が困難になったためかかりつけ医、ご家族様と相談を行い訪問診療に切り替わった。	入居時に希望を確認し、ほとんどの利用者が入居前のかかりつけ医へ受診又は訪問診療を継続することができている。事業所近所に内科や皮膚科、薬局があり、必要時は事業所対応での受診を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携時に相談を行いアドバイスを受けている。また、主治医からの指示で訪問看護師の処置を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院、ご家族様、ホームと早期に退院できるように情報を交換し今後について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の際に重度化対応、終末期ケア対応にてご家族様に確認を取っている。また早い段階から主治医、ご家族様と話し合い、看取りについて話し合いを行っている。	重度化対応・終末期ケア対応指針を策定し、入居時や説明と意向を確認している。また、同意書を作成し方針を共有している。状態変化時にも再度意向確認し方針を話し合っている。医師及び訪問看護師といつでも相談できる体制を整えており、連携のもと支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医、訪問看護ステーションと話し合い対応の仕方をマニュアルに沿って職員間で共有し緊急連絡網にて伝達を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に入居者様が速やかに避難できるよう、ホームでの総合訓練は年2回行っている。地域との協力体制は築けていない。	年2回の総合訓練を実施している。今年度は9月に夜間火災想定での避難訓練を実施している(今年度2回目は3月下旬に予定している)。災害時のマニュアルと連絡体制が整備されている。災害時に備え、備蓄品を保管し、期限や在庫等は本社で管理している。	夜間想定訓練に、夜勤に携わる全職員の参加が望まれる。また、利用者と実際に事業所外まで避難を行う訓練を実施し、災害時の課題について確認されること、消防署や地域住民等の参加を再開し、災害時の協力体制構築が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様ひとり一人へ、常に丁寧な言葉遣いで対応することを心掛けている。トイレ時は必ずカーテンを閉め羞恥心に配慮しケアを行っている。	日頃から、声掛けや環境面に配慮するなど、利用者一人一人を尊重した支援に取り組んでいる。個人情報の管理については、鍵付きの書庫に保管している。今年度は接遇マナーについての研修を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に食べたい物をお聞きしメニューに取り入れたり着替えの時にどちらがいいか選んでいただき確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活スタイルを把握し、自分のペースで生活していただいている。お手伝いが好きな方、居室で過ごすのが好きな方、TVを見ることが好きな方、お話が好きな方それぞれに合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	夏祭りに着物を着ていただくなど、おしゃれを楽しんでいただきながら参加いただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	ひと月に一度食事会を設け、入居者様と職員が作ることから一緒に行い、全員で食事を楽しんでいる。ビールのお好きな入居者様にはジョッキでお出ししている。	3食共に手作りで、利用者と職員と一緒にチラシを見ながら献立を考え、調理や準備片付け等共に実施している。事業所の畑で採れた野菜を使用した料理や毎月1回2つのユニット合同食事会の実施、誕生日は利用者の好きなメニューでお祝いするなど食事の楽しみが充実している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み込みが悪くなった入居者様には刻み食やミキサー食にて提供している。また、水分摂取の少ない方には声掛けを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人様の状態に応じて歯磨きの声かけや義歯洗浄の介助を行っている。毎月歯科衛生士の訪問を受けアドバイスを受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツやパットの交換が最小限で収まるようトイレの声掛けを行い、トイレにて排泄できるよう支援を行っている。	利用者の排泄パターンに応じた声掛けや誘導でトイレでの排泄を継続できるよう支援している。現在ほとんどの利用者がトイレを使用し排泄している。オムツ類の種類見直しや経済的負担軽減等、業者との相談も行いながら検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ひじきや切り干し大根などを取り入れたりし、食物繊維が摂れる食事を提供している。乳製品を多く取り入れ予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けを行い、ひとり一人の希望に合うよう支援を行っている。入り口には暖簾をかけて入浴を楽しんでいただいている。	できる限り利用者の希望のタイミングで(日中、就寝前等)入浴ができるよう取り組んでいる。夏場は2日に1回、冬場は2～3日に1回入浴を行っている。季節ごとにかわり湯実施、ソープ類は利用者の好みの物を持参し、入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも入居者様の眠気が見られるかたには声かけを行いベッドに休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を名前ごとにファイリングしいつでも確認できるようにしている。薬の変更があった時には申し送りを行い情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会を開き好物のお食事でお祝いをしたりお天気の良い日にはドライブに出かけたりしている。お天気の良い日にはホームの庭を散歩したり日向ぼっこをしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	神社やお寺の好きな方やお花の好きな方など希望に添った外出を楽しんで頂いている。	誕生日にはお墓参りや神社参拝、自宅への外出など利用者の希望の場所へ出かけることができるよう取り組んでいる。家族協力のもと受診時に外食等の希望の場所へ外出することもできる。花見やバラ園、紅葉、事業所の畑や近所の散歩等、日常的に外出の機会を多く作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に関しては立替金にて買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日プレゼントが届いた時にお礼の電話の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節がわかるように行事の物を飾っている。	共用の空間には、季節感のある作品が飾られている。ソファや小上がりの和室等、利用者が思いおもいの場所で過ごすことのできる空間となっている。事業所内は明るく、加湿器や温度湿度計が設置され過ごしやすい空間を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が好きなようにテーブル席やソファでひとりでくつろいだり、TV前のソファでくつろぎながら他入居者様とお話したり、思い思いに過ごせるような環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている（グループホームの場合）利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	馴染みのタンス、テーブルや椅子を使用し落ち着いて過ごして頂いている。仏壇を持って来られている入居者様もいらっしゃる。	トイレ付き個室で、備え付けベッドが利用できる。自宅から馴染みの家具や布団、写真やアルバムなどを持参している。月に1回、法人独自の4S活動を実施し、整理整頓を徹底している。介護助手がシーツ交換や掃除を行っている。クイックルワイパーでの掃除を日課とする利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の必要に応じて居室に手摺を設置している。また、共有スペースでは入居者様の状態に合わせて肘掛け椅子などを用意している。		